

# 第6次草津市総合計画策定 市民会議

---

報告書

(第1回・2回分)



## 目 次

はじめに.....	1
草津市総合計画策定市民会議 <まとめ>.....	3
1 長所を伸ばす.....	3
2 どこを変えたらよいか.....	3
3 進めたいことは.....	4
4 住みたいまちはこんなまち（将来像への展開）.....	4
第1回 草津市総合計画策定市民会議 会議録.....	6
1 実施概要.....	6
2 議 事.....	6
第2回 草津市総合計画策定市民会議 会議録.....	21
1 実施概要.....	21
2 議 事.....	21



# はじめに

## 1. 目的

草津市では、現行計画の第5次草津市総合計画の計画期間が令和2年度で終了することから、令和3年度から令和14年度までの12年間の計画期間とした第6次草津市総合計画の策定に約2年間かけて取り組んでいます。

この市民会議は、各団体の関係者と公募市民で構成され、草津市の今後のまちづくりなどについての意見交換を行い、いただいたアイデアや御意見を第6次草津市総合計画の策定に生かすことを目的に設置しています。

第1回、第2回の市民会議では、基本構想の策定に向け、本市の「伸ばすところ」、「変えたいところ」、「進めたいこと」や、「住みたいまちはこんなまち」をキーワードに意見交換実施しました。

## 2. 委員名簿

No.	分野	氏名	所属	備考
1	人権	木村 登代美	草津市人権擁護委員の会	
2	男女共同参画	内田 雪絵	くさつ☆パールプロジェクトチーム	
3	教育・青少年	湯浅 敦	草津市青少年育成市民会議	
4	生涯学習・スポーツ	嘉悦 和子	NPO法人 くさつ健・交クラブ	会長
5	市民文化	中村 徹	草津市美術展覧会実行委員会	
6	子ども・子育て	市川 嘉重	草津市認可保育園連盟	
7	長寿・生きがい	山本 一房	草津市認知症キャラバン・メイト	
8	障害福祉	河副 健一	NPO法人 草津市心身障害児者連絡協議会	
9	地域福祉	寺崎 罔男	草津市ボランティア連絡協議会	
10	健康・保険	月川 由佳里	一般社団法人 びわこ薬剤師会	
11	生活安心	野田 まり子	草津市消費者リーダー会	
12	防犯・防災	中野 佐市	草津市防災指導員連絡協議会	
13	うるおい・景観	横井 寛	NPO法人 琵琶湖ネット草津	
14	環境	梶山 和紀	パナソニック株式会社 アプライアンス社	
15	住宅・住生活	水野 清治	公益社団法人 滋賀県宅地建物取引業協会	

No.	分野	氏名	所属	備考
16	上下水道 道路・交通	守野 洋史	NPO法人 草津の未来を建設する市内業者会	
17	農林水産	横江 秀美	株式会社横江ファーム	
18	商工観光	前田 武憲	草津商工会議所青年部	
19	コミュニティ・市民自治	吉田 和子	地域まちづくりセンター運営会議	副会長
20	情報・交流	鶴田 真理子	草津市国際交流協会	
21	公募	藤原 教夫		
22	公募	川端 治		
23	公募	米倉 和美		
24	公募	光嶋 万結		
25	公募	北川 亜里沙		

### 3. 開催概要

#### ① 第1回

日 時	令和元年6月12日(水) 午後2時～午後4時
場 所	草津市役所2階 特大会議室
テーマ	草津市の伸ばすところ、変えたいところ、進めたいこと ワークショップ方式

#### ② 第2回

日 時	令和元年7月19日(火) 午後2時～午後4時
場 所	UDCBK (アーバンデザインセンターびわこ・くさつ)
テーマ	住みたいまちはこんなまち ワールドカフェ方式

# 草津市総合計画策定市民会議 <まとめ>

## 1 長所を伸ばす

- 市の特徴として、京都に近く広域的交通の便が良いこと、コンパクトに商業施設や病院等生活に必要なものがまとまっていること、買い物が便利なこと、さらには、緑の多い街並み、桜並木など生活がしやすい、住みやすいことがあげられる。
- 大手企業の立地も好条件。
- 自然豊かな地形をまちづくりに生かすことや歴史的背景・資源を利用した観光資源の発掘などもさらに求められるところ。
- 医療費の支援制度をはじめ、子育て環境が充実しており、英語教育の充実など教育行政が先進的であること、近くに大学が多く、今後のIT教育にも役立つものと考えられている。
- スポーツ活動サポートボランティア、大学生ボランティアをはじめ、市民活動が盛んであることも特徴である。
- 水産業・農業は、加工、販売を含めて伸ばしていくことが大切。
- 健康寿命をのばす、高齢者の生きがい対策もさらに進めていく必要がある。

## 2 どこを変えたらよいか

- プリムタウンなど急激な人口増加に対応するインフラの整備が遅れており、道路が狭いことによる車の渋滞、とりわけ駅周辺の交通渋滞の対策が求められる。
- 地域によって交通の便の差が目立ち、通勤するのにバスの本数が少なすぎるなどの課題もあり、まめバスの路線拡大なども求められている。
- まちのうるおいの面では、街中に大きな緑・公園をもっと増やすことも必要とされている。
- 草津で美味しい店と聞かれても答えられない、特長がない、など商店街の顔づくりも求められている。
- 農業後継者の人材不足。伝統行事の担い手不足。また、地域の役員の後継者不足などさらなる人材の育成が必要となっている。
- 農業振興として、学校給食で地場野菜を優先的に食べさせるようにとの指摘もある。
- 介護が必要になっても、地域で住み続けられる環境づくり。車いすの利用しやすい道づくり、歩いて行ける範囲で買い物ができる環境づくりなど、市内のどこの地域であっても生活のしやすい環境づくりが必要とされている。

- マンション住民と旧住民との交流など地域のコミュニティ活動の活発化。地域の間関係、お互いが顔の見える環境づくり、さらには、共生社会の実現に向けてもっと多世代が交流できる場所を増やすことが大切とされている。
- 救急で受け入れてくれる医療機関の確保、子ども対策として、乳幼児健診の充実、待機児童の解消、小学校生徒数の均一化なども課題とされている。
- 高齢者のひとり暮らしのサポート隊、社会参加が苦手な人との交流、認知症理解の教育など福祉のまちづくりが必要。
- 外国人への対応として、大学へ通う外国人留学生が多いのに、その人たち向けの相談室がないので、外国人生活者向けの相談窓口を市役所につくるなど、外国人も安心して暮らせる多文化共生のまちづくりが求められている。

### 3 進めたいことは

- インフラ整備として、道路整備をはじめ地域間の格差の解消。
- 交通弱者が使いやすい交通機関の整備、例としてオンデマンドバスの創設。
- 旧住民と新しい住民との交流、空き家の利用、地域から人材・担い手を育てる。
- 教育行政のさらなる充実。教育への先行投資の拡大。子どもの自己肯定心を育てる教育。教育面で、心のケア、家庭ケアの拡充。
- 負担をかけず、しかも手間ひまかけない地域力の確保。
- 地産地消の推進。
- 歴史的背景の活用、伝統行事を守り続ける、昔からの宿場まちを活かした歴史好きが集まる観光都市づくり。
- 人のきずなづくりとして、健康寿命を延ばす。児童虐待への対応など。
- 草津ってどんなところと、ずっとできるPR・情報発信の推進。
- 外国人ケアとして、相談窓口をつくり地域交流等を行い、外国人の力を利用した住民の国際化。

### 4 住みたいまちはこんなまち（将来像への展開）

- ユニバーサルデザインの「ひとに優しいまち」
- 歴史があるまちなので、生活している中で感じられる、「日頃の生活の中で歴史を近くに感じられるまち」
- 大学生、若い活力あるエネルギー溢れる、「若さ溢れるまち」
- 市の中で、ある地域とある地域は分断されているのではないかと、いろいろな意味で遠い、高齢者の方が、隣近所がないと言われるとの意見もあり、それを解消するためにキーワードとして「つなぐ、つながる」もあり、一つの言葉で施策をやっていけばばらばらなものが一つにまとまるのではないかと。



- 高齢者の方、障害のある方、子ども、そういった方々に優しいまちが住みたいまち。
- 税込、税の使い道とか、いわゆる、ひきこもりの方々が労働人口として、ちゃんと働いてちゃんと税金を納める社会づくり。そのような税を増やす方法と、引きこもりの方、鬱の方、認知症の方、そういった方々が、助けてと声を出せる、相談ができるまちづくり。「ひとにやさしいまち」がポイント。
- 「人が集まれる場所」それは、大きなコミュニティであっても良いし、小さなコミュニティであっても良いが「人が集える場所」があってほしい。
- この場所（UDCBK）もどれくらいの人知っているのだろうか。もっと知らしめて皆がわかれば、人は集うのではないか。そのような場所を知った中で、たくさん増やしていければ、幸せなまちになっていくのではないか。
- コミュニティでは、集まる人が限定されるようになるので、それを広くつなげられれば良い。人が集まる場所とは、このような場所もそうだし、企業・働く場所も、引きこもりの方が社会に出てきて集まれる場所。個と個をつなぐ場所。子どもたちが集まる場所、教育の場所。そのような場所が多く、かつ繋がれば、幸せなまちになるのではないか。
- 「思いやりのあるまち」  
個人であったり、企業人であったり、それぞれの方々がボランティア活動を推進してやっていくことができるようになっていく。そうすることが思いやりのあるまちに繋がる。
- 「やりたいことができるまち」  
高齢者、障害のある方、子育て中の方、そのような方々にもう一度チャンスを、そして社会に参画できて働いていけるような社会づくり。
- 「働く場所が充実したまち」

# 第1回 草津市総合計画策定市民会議 会議録

## 1 実施概要

日 時	令和元年6月12日(水) 午後2時～午後4時
場 所	草津市役所2階 特大会議室
出席委員 (21名)	木村委員、内田委員、湯浅委員、嘉悦委員(会長)、山本委員、河副委員、寺崎委員、月川委員、野田委員、中野委員、横井委員、梶山委員、水野委員、守野委員、横江委員、吉田委員(副会長)、鶴田委員、川端委員、北川委員、光嶋委員、米倉委員
欠席委員 (4名)	中村委員、市川委員、前田委員、藤原委員
事務局 (6名)	総合政策部：岡野部長、金森副部長 企画調整課：松浦課長、小川課長補佐、村上副係長、力石主査

## 2 議 事

### (1) 開 会

#### 【岡野部長】

- 本日は大変お忙しい中、第1回の草津総合計画策定市民会議に御出席賜り厚く御礼申し上げます。
- また、日頃はそれぞれの立場で市政の推進につきまして、お世話になっていること、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。
- さて、総合計画につきましては、草津市のまちづくりの基本となる長期の計画でございます。現在、計画期間が平成22年度から令和2年度までの第5次草津市総合計画に基づき市政を運営しております。
- 第5次草津市総合計画につきましては、計画期間が来年度末で終わりますので、現在、第6次草津市総合計画の策定に向けた取組を進めております。
- 総合計画は、まちづくりの基本となる計画ですので、市民の皆様方の多様な御意見を反映させてまいりたいと思っております。今回、皆様には、これまでのまちづくりのことも少し振り返っていただきながら、また、今後、草津市においても人口減少局面を迎えることが予測されていますので、そういったことにも思いをはせていただきながら、将来のまちづくりについて御意見をいただけたらありがたいと思っております。
- 今回の市民会議は、実際に市民活動していただいている方々や、公募の方々もいらっしゃいますけれども、皆様の率直な御意見をお伺いできたらなと思っております。
- このあと、総合計画についての概要説明をさせていただいた上で、まちづくりについての意見交換をさせていただきますので、皆様からの率直な御意見をいただければありがたい

と思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## **(2) 委員自己紹介、事務局紹介**

○実施概要に記載の委員による自己紹介および事務局紹介。

## **(3) 会長、副会長の選出について**

○会長：嘉悦委員、副会長：吉田委員

※草津市総合計画策定市民会議開催要綱第4条に基づき、会長および副会長を選出。

## **(4) 草津市の総合計画について**

### **【事務局】**

○資料4について説明

### **【委員】**

○第5次草津市総合計画の現状や課題を踏まえて、次期総合計画ではこうするといったものがあるのか。

### **【事務局】**

○第6次草津市総合計画を策定する上での、課題等について、例えば、今後、少子高齢化の進行や、将来的に人口減少局面を迎えることなどが挙げられるので、こういった視点も踏まえながら、御意見をいただければと考えている。

## **(5) グループワーク**

○A～Dの4グループに分かれてグループワークを実施

## **(6) 発表**

### **○Aグループ**

#### **【伸ばすところ】**

- ・交通として、まめバスの利用。まめバス等交通弱者にもやさしいインフラを整備していくこと。
- ・歴史・文化として、歴史的背景を利用して、古くからの伝統行事をすること。
- ・水と緑として、草津市は山からびわ湖まで地形が続いているので、自然豊かな地形をまちづくりに活かす。緑地の環境（ロクハ公園他）や琵琶湖岸の自然環境を守り活用していく。
- ・公共・施設としては、まちづくりセンターの利用方法。JR各駅のエレベーター化や、地域のコミュニティセンターに障害のある方が参加しやすいしくみづくり。また、若者（学生）が他市より多いので、もっと地域の中に出ていけるようにすること、堤防

施設の利用などがあります。

- ・自然の恵みとしては、市街化調整区域の田んぼを守る。
- ・水産業・農業。これは、加工、販売含めて伸ばしていきたい。
- ・暮しやすいまちとしては、生活がしやすい、住みやすい、買い物が便利ですが、中学生まで入院費無料、フェリエ図書館の駐車場4時間無料、小学校3年生まで通院費無料などがあります。

### 【変えたいところ】

- ・施設・交通・買い物として、これは福祉と重なる部分もありますが、団体のとびこみプールの廃止。維持費がかかるから。JRのトイレの洋式化、まめバスの路線拡大、商店街の町づくり、行政施設のハコものが多い。もっと心のバリアフリーに生かせるような施設を展開すべきである。
- ・後期高齢者の住民税非課税世帯の医療費助成全額無料。高齢になっても、介護が必要になっても、地域で住み続けられる環境を作ってほしい。車いすの利用しやすい道づくり、歩いて行ける範囲で買い物ができる環境づくり、市内のどこの地域であっても生活のしやすい環境。
- ・福祉として、精神障害者の通院入院費の全科無料の助成制度。まずは、住民税非課税世帯から、そして、住民税非課税世帯の医療費は、無料化にする。それと、市役所の組織改革。例えば、障害福祉は、障害福祉課だけでなく、各課でも横断的に、取り組める仕組みにしてほしい。
- ・人のつながりとして、農業後継者の人材不足。伝統行事の担い手不足。また、地域の役員の後継者不足があります。共生社会の実現に向けてもっと多世代が交流できる場所を増やす。世代が代わりつつあり、他人に無関心の人が増えているので、地域のコミュニティ活動を活発化する。地域の間人関係をお互いが顔の見える環境にする。マンション住民と旧住民との交流をしていきたい。他に、烏丸半島の開発の中止。経済よりも自然が大事だから。また、子供たちの遊び場も必要。

### 【進めたいこと】

- ・歴史・伝統として、歴史的背景の利用、伝統行事を守り続ける、昔からの宿場まちを活かした歴史好きが集まる観光都市づくり、レストランやカフェなど若者や若い親世代が来る場所に伝統野菜・水産物等のメニュー化をどんどん進める。
- ・ハコモノ開発中止。田んぼの保全。
- ・交通・施設として、交通弱者が使いやすい交通機関の整備、例としてオンデマンドバスの創設があります。
- ・地域の活性化として、旧住民と新しい住民との交流、空き家の利用、地域から人材担い手を育てることです。
- ・福祉として、車イスでの道利用（無電柱化）と、精神障害者や後期高齢者の住民税非課税世帯の医療費助成を進めたい。

## ○Bグループ

### 【伸ばすところ】

- ・教育・子育て。人口が増えている、特に子どもが増えている。子どもがのびのび遊べる公園が多い。教育行政が先進的である。近くに大学が多いこと。IT教育、ペッパーくんなど。
- ・文化として、歴史のまちづくり。これは、滋賀県全体にもいえることですが。宿場まつり、図書館文化。
- ・便利なところ、草津市は、京都に近く交通の便が良い、コンパクトに商業施設や病院等生活に必要なものがまとまっている。
- ・市民生活（地域活動）では、官民連携ができていて、市民活動が盛んなところ。

### 【変えたいところ】

- ・道路整備として、車が渋滞する、道路が狭い。裏道と言われる細い道が多く、その道がスクールゾーンになっていて危ない。草津川跡地の残りの部分の整備もお願いしたい。都市計画の見直しや、ビワイチのコースに駅周辺も入れてほしい、お金を落とすスポットを増やす。
- ・医療として、救急で受け入れてくれる医療機関が少ない。
- ・学校、小・中学校が足りないので、増やす。
- ・街中に大きな緑・公園をもっと増やす。都市計画法の緩和。市街化調整区域の建物賃貸借の見直し、コンパクトシティ化、工業団地が足りない。
- ・地域活動として、地域の役への負担が大きい、また、シニア世代と子育て世代の分断、古い地域と新しい地域の分断があり、PTAが罰ゲーム感となっているという意見もあります。
- ・他には、行政依存型で、内向的、自ら主張しない。また、防災の意識が低いというのがあります。

### 【進めたいこと】

- ・教育行政のさらなる充実。教育への先行投資、いまの子どもは将来の納税者であり、これから各地域で子どもの取り合いになるので、ペッパーくんの延長、子育てのバックアップ。
- ・開発できる土地もあるので都市計画をきちんと考えて整備すべき。工業地帯、企業の受け皿を作る。
- ・救急の専門医がほしい。
- ・市民の市政への積極参加。負担をかけず、しかも手間ひまかけない地域力の確保を進めたい。

## ○Cグループ

### 【伸ばすところ】

- ・地域のきずなを強めること。町内会の加入率、ボランティア参加率の上昇。各地での祭りを集約すること。
- ・人権として、LGBTQへの理解。
- ・観光として、宿場町として町屋を残す。観光資源の発掘。
- ・高齢者対策として、健康寿命をのばす、高齢者の生きがい事業。買物難民対策として、まめバスの活用。そして、地域包括ケアを小学校毎にする。
- ・安全・災害としては、もともと安全なまちだが、マンション住民の災害対策をする。
- ・環境として、緑の多い街並み。桜並木など。de愛ひろばやai彩ひろばのPRが必要。
- ・健康として、スポーツ活動サポートボランティア。駅から近いスポーツ環境の整備。新しい体育館を活用する。また、子どもたちの体力アップを立命館大学ボランティアで行っていること。
- ・教育・子どもとして、子育ては、子育て世代が元気で、子育て環境の充実。英語教育の充実。

### 【変えたいところ】

- ・人口対策として、プリムタウンによる人口増への対応。商店街がマンション化している。
- ・公共施設として、火葬場が狭く、古い。駅周辺に大きなホールがない。
- ・情報では、一斉放送が聞きやすいようにする。草津で美味しい店と聞かれ答えられない。特長がない。
- ・子ども対策として、乳幼児健診の充実、待機児童の解消、小学校生徒数の均一化を図る。生徒数が多い学校があるので。
- ・公園内のスポーツ器具を使用している数が少ない。
- ・ゴミ問題として、ゴミ箱の設置など。
- ・孤立化対策として、外国籍住民への対応、高齢者のひとり暮らしのサポート隊、社会参加が苦手な人との交流、認知症理解の教育を進める。
- ・道路としては、駅周辺の交通渋滞。特に雨の日がひどい。草津駅からシティアリーナまでの交通道路、路線バスの復活を求めたい。

### 【進めたいこと】

- ・人のきずなづくりとして、健康寿命を延ばすこと。特に、スポーツを通して、地域のきずなを。情報発信は、草津ってどんなところと、ずっとできるPR・情報発信をする。
- ・インフラ整備として、道路整備。
- ・福祉は、老後が安心できるまち、弱者支援。そして、地域間の格差の解消。

## ○Dグループ

### 【伸ばすところ】

- ・市の立地条件として、立地が良く、パナソニックをはじめ大手企業があること。
- ・まちづくりとして、新しいまちが出来ている中での交流のあり方。旧地域との交流。新住民と旧住民が協力してまちづくりを考える。災害時の救助について、地域の役割、地域防災体制について、市、消防、地域自衛消防。地域の高齢化が進んでいる中での取組について考える必要がある。
- ・草津川公園は、毎週にぎやか、人が集まって活気がある。ボランティア団体が多いので活用することなどもある。大学との交流として、学生が多いので活用すること。大学生や、外国人留学生と共生できるまち。また、大学生と地域との交流として、祭りへの参加、地域の行事への参加など、学生のまちであり大学が多い。
- ・住みやすいまちのランキングが上位であり、若者や子育てを考えている人にとって最適。若者が地元に戻って来やすい、若者の力を生かす取組を伸ばす。

### 【変えたいところ】

- ・まちづくりについて、高齢者にとって住みやすい場所にしていくべきで、学区での全体交流の中で新しくできた地域住民の参加率を上げる、世代交代の問題として、地域の役員など仕事していてもできるような仕組みづくりが必要。
- ・農業振興として、学校給食で地場野菜を優先的に食べさせるようにしてほしい。第一次産業の保護、田・畑の荒地をなくすこと。
- ・交通対策として、高齢化しており、田舎では車が必要。バスが少ない、スーパーが遠い、日常買物の場が遠いので、車を小型化して低価格で購入したい。駅前の便利さを田舎の方にもほしい。
- ・行政としては、高齢者にやさしいまちづくりとして、道路の危険箇所が多いし、細い道が多い。近隣市町を引っ張っていけるくらいの行政力、行政職員の意識を持ってほしい。
- ・地域おこしとして、観光地化しやすいのにしていない。d e愛ひろばの通行、観光農園の活用。
- ・外国人への対応として、大学へ通う外国人留学生が多いのに、その人向けの相談室がないので、外国人生活者向けの相談窓口を市役所に作る。外国人も安心して暮らせるまちにする。例えば、案内板を英語の表記にするとか、やさしい日本語の取組、ハラフード対応など。
- ・交通渋滞として、南草津駅東口の行列、南草津駅周辺道路の混雑。雨の日は、南草津に渋滞ができる。しかし、場所によって交通の便の差が目立つ、通勤するのにバスの本数が少なすぎる。プリムタウンに関わる人口増加に対応するインフラの整備。

### 【進めたいこと】

- ・子どもの教育について、子どもの自己肯定心を育てる教育。教育面で、心のケア、家庭ケア。

- ・インフラ整備として、高齢者向けに、小型自動車を普及させてほしい。というのと、自動車免許返納後の移動手段。高齢者・障害者の移動手段として、交通手段の確保を進めたい。バスが少ない地域がある。また、草津駅から d e 愛ひろばへ直通する遊歩道がほしい。
- ・まちおこしとして、地域間格差をなくす。地域交流の場への参加率向上。I ターン向けの政策を増やす。
- ・地域での不安対策として、若者の交通事故や、不審者情報が最近多いこと、児童虐待への対応など、高齢者・障害者が安心して楽しく生きられるように。
- ・観光として、SNSの利用を進める。
- ・農業として、第一次産業を、自治体が保護を行い、地産地消を推進する。
- ・外国人ケアとして、公共施設での英語等の表記ややさしい日本語表記をする。外国人や外国人労働者への補助、相談窓口をつくり地域交流等を行い、外国人の力を利用した住民の国際化を進める。

## (7) 閉 会